

見回り削減時間の可視化と 運用経費を軽減し、持続可能なモデルを構築



採択事業者名 株式会社ノース
コンソーシアム構成員 株式会社電信 | 株式会社ごごしま

勉強会の実施概要

コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	8	実施回数の累計	16
参加人数のユニーク累計	15	参加人数のユニーク累計	63

代表的な実施事例

狙いとゴール	罾センサーの費用対効果を検証しつつ、次年度以降の運用モデルを構築する
実施の成果	1年間で1155時間の見回り時間の短縮につながった - 罾センサーを使用する興居島猟友会メンバーが1台1ヶ月数百円で負担することで来年度以降の運用モデルが決定した
実施アジェンダ 協議内容	①今年度の捕獲頭数 ②LPWAの電波範囲について ③見回り時間の短縮について ④次年度以降の負担金について ⑤保守運用の業務範囲 ⑥各メンバーごとのレンタル数について ⑦レンタル利用規約に関して
参加者の一例	興居島猟友会メンバーおよびコンソーシアムメンバー
次年度以降の 想定アクション	- 興居島に関しては60台の罾センサーを活用し、より効率的で見回り労力の削減につながる運用方法を検討するとともに、基地局やセンサーの入れ替えを想定し、中長期的な視点での予算の確保を検討する - 興居島の事例や無料トライアルの結果を踏まえ、県内自治体への横展開を図る

編集データの抜粋やビジュアルなどを適宜挿入

番号	罾センサーを使用する前の見回り時間		罾センサーを使用した後の見回り時間		短縮時間	
	1日もしくは週あたり	年間累計	1日もしくは週あたり	年間累計(h)	年間累計(h)	年間累計(h)
A	1日あたり40分程度	243	1週あたり40分程度	35	208	
B	1日あたり100分程度	608	1週あたり180分程度	156	452	
C	1日あたり30分程度	183	1週あたり20分程度	17	165	
D	1週あたり60分程度	52	1週あたり15分程度	13	39	
E	1日あたり30分程度	183	1週あたり30分程度	26	157	
F	1日あたり5分程度	30	1週あたり5分程度	4	26	
G	1週あたり20分程度	17	1週あたり1分程度	1	16	
H	1日あたり30分程度	183	1日あたり15分程度	91	92	
			計		1,155	



データ活用・協議の具体例

重要指標例	データ活用・協議の具体例	
	① 見回り時間の短縮 ② 罾センサーを利用した捕獲頭数 ＝効果検証を踏まえ、次年度以降の運用モデルを構築	
	実装前	実装後
	- 罾に猪がかかったかどうかは、原則目視 - 捕獲頭数に関しては補助金の申請もあり、都度松山市興居島支所に報告していた - 見回り時間に関するデータは取得していなかった	- 罾に猪がかかると設置者にメールでお知らせ - 罾センサーの電波受信状況や電池の残量用も管理画面から確認可能 - 罾センサーを利用して猪を捕獲した場合は、猟友会各メンバーからコンソーシアムに報告
	見回り労力の削減に関しては、猟友会各メンバーの経験にゆだねられていた	実装前と実装後の見回り時間をアンケート等で取得し、罾センサーによってどの程度労力が削減されたか可視化
データ取得 データ活用 実行 業務反映	森深い山中に罾を設置しているケースも多く、見回りの労力が大きいため新規猟友会メンバーの獲得も苦慮していた	- 見回り労力の削減データおよび罾センサーを利用した捕獲頭数をもとに、ソリューションの費用対効果を興居島猟友会と協議 - データをもとに、興居島猟友会への新規加入や休眠会員への罾センサー利用を働きかけ
	- 見回り労力を削減するためのデータを保有していなかったメンバー内で有効な対策を立てられずにいた - 一方で7～8年前から、興居島内での猪は加速度的に増えていた	- 興居島猟友会メンバー(11名)が1台1ヶ月数百円で負担、計60台のレンタルで運用決定 - なお徴収したレンタル費は、基地局や罾センサーの修理、太陽光パネルなどの消耗品、保守管理の人員費等に充当する

代表的な実施事例

① 見回り時間の短縮 実装後 1,155時間(KPI 1,100時間)
② 罾センサーを利用した捕獲頭数85頭(占有率61.6%)
③ 罾センサーの利用者増加 3名(2023年3月) ⇒ 6名(2024年11月) ⇒ 9名(2024年2月) ⇒ 11名(2025年4月)